

平成 27 年度 栗東市バス対策地域協議会 議事録

[開催日時] 平成 28 年 2 月 25 日(木) 14:00～

[開催場所] 栗東市役所 4 階 第 3・4 委員会室

[出席者] 清水会長、坂口副会長、山岡委員、上田委員、村林委員、青木委員、
黒田委員、高尾委員、横幕委員（代理者出席）、隠岐委員、山田委員、
樋口委員、濱田委員、川村委員
野村市長、太田市民部長、事務局（市民部生活交通課）

[欠席者] 駒井委員、榊原委員

[会議概要]

1. 開 会
2. 挨拶
 - ・清水会長挨拶
 - ・野村市長挨拶
3. 協 議 事 項
 - (1) くりちゃんバスの利用状況について
 - (2) くりちゃんバスの運行見直しについて
 - (3) その他
 - ・くりちゃんタクシー「金勝循環線」の全時間帯におけるフレンドマーケット停車について
 - ・帝産湖南交通(株)「金勝線」(栗東駅～コミュニティセンター金勝)について
4. 閉 会
 - ・坂口副会長挨拶

[議事内容]

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 協議事項

(1) くりちゃんバスの利用状況について

主な意見、質疑応答など

○意見無し

(2) くりちゃんバスの運行見直しについて

主な意見、質疑応答など

○ 過去の経緯を見ていると、平成 15 年当初の運行開始以来「負のスパイラル」で推移してきたため、最終的に平成 25 年に一部の路線廃止となったが、利用者側がバスの復活(宅屋線の延伸)をどう見ているのか。今回、復活するのであれば、再び休廃止にならないよう、市民の方への PR をお願いしたい。

それから、フィーダー補助を国に申請されることについて、現在、国では地域公共交通確保維持改善事業があるが、その事業予算自体、平成 28 年度は前年比でかなり減る。減った部分は、別の予算、地方創生の新型交付金に移行するが、従来の方式では要望額が得られない可能性がある。新型交付金を得るための「地域公共交通網形成計画」について、平成 28 年度、栗東市では立てるつもりがあるのか、あるいは全然ないのかどうかについてお聞きしたい。

→今般の宅屋線の延伸については、特に出庭地域で旧路線が廃止となっていたため、どの方法が最も良いのか、検討していた。当初は、病院と繋いで欲しいという要望であったため、病院を主眼に考えていたが、次に駅と繋いで欲しいという要望も出てきた。その後、近隣市にも十分な理解を得ながら、また地域において、交通網が欠けているという話もあったので、お互い個々の事情が合致したことで、今回、3 市をまたぐような提案をさせていただいた。これは、全国的にも稀有な事例と聞いているので、ぜひとも実現していきたい。

→「地域公共交通網形成計画」について、栗東市の形成計画は、基本的には平成 14 年の体系をもって、ダイヤが粗いような部分があるものの、概ねネットワークはできていると認識している。国からのいろいろな説明もあり、また県からも同様の解釈を得ている。

国から形成計画とか、再編計画の策定等について言われているが、市では、一旦はそういった計画ができていくスタンスである。ただ、新年度に今の課題設定・現況分析とあわせて、コンサルタントと協力しながら見直していきたいとは考えている。1年かけて見直して、その後、必要な再編があれば改めて再編計画のステップを続けていくということです。また来年度、当協議会において、ステップの進行状況・成果等を報告していきたいと考えている。

(3) その他：くりちゃんタクシー「金勝循環線」の全時間帯におけるフレンドマート停車について

主な意見、質疑応答など

○意見無し

(4) その他：帝産湖南交通(株)「金勝線」(栗東駅～コミュニティセンター金勝)について

主な意見、質疑応答など

○金勝地域の人口も割と減り気味なので、バスの利用者が少ないということは、理解しているが、地域的に高齢者等の交通弱者が多いという事情がある。病院・買い物に行くための交通手段がないため、減便は仕方がないとしても、廃止に向けた施策にはならないよう、ぜひともお願いしたい。ただ、交通弱者の救済策として、できるだけ減便もしないよう、ぜひともお願いしたい。

→実は、廃止の方向性という話も出ているが、栗東市とも相談した上で、先のことは考えていきたいと思っている。なお、急遽、廃止するようなことはしません。もし廃止するという事になった際には、事前に説明しながら違う方法を提案した上で検討していく。

○減便される路線付近には小学校・高校があるが、路線が減便されることで、通学には影響はないのか？

→小学生の利用は無い。高校としては、国際情報高校があるが、栗東駅からは自転車通学、手原駅からは自転車もしくは徒歩での通学がメインとなっている。ただ、雨の日に、栗東駅から高校生が利用することはあるが、草津駅から出ている学校行きのバスで対応できると考えている。

○栗東市としては、減便は厳しい措置かと思うが、一方で利用者減少により、やむを得ないところもあるとは考えている。このバスについては、金勝方面から済生会病院への利用が中心になっているので、市としても、減便された後には、済生会病院に行く方が困らないように、乗り継ぎの案内を行ない、少しでも利用者への影響が少なくなるように取り組んでいきたいと考えている。

○今回の減便の提案は、バス事業者から短期間の内に市へ伝えられたと聞いている。あまり早急に採決を求める話でもないので、やはり協議会の中で話し合っ、地域の意見等も聞いてから進めるべき事柄ではないかと思う。

○同業者として県下で事業展開しており、地域の皆様にバスに親しんでいただくために、もっとバスの利用促進策をもっと進めていかなければならないと考えて、事業を行っている。しかし、概ね 7 割以上が赤字路線を抱えている中、一部路線によって、赤字を補完しているのが現状で、人口減少の環境下で収益が上がらない状況の中で、なんとか運行を行っている状況を市民のみなさまにも知っていただきたい。また、利用者の方々には厳しい状況の中、バス事業者としても全力で頑張っていることを少しは知っていただければと思っている。

4. 閉会

以上